

金剛禪布教者の生活

はじめに

第一章 金剛禪が在家教団である意義

第二章 在家信者の生活環境とは

第三章 道院長に求められる生活態度

■はじめに

本レポートではまず最初に金剛禪が出家者によって運営されるのではなく、在家者によって運営される教団である事を述べ、そういった在家信者を取り巻く生活環境について述べる。その在家信者の中から、特に指導者として金剛禪布教の最前線に経つ道院長に求められる生活態度について考察する。

第一章 金剛禪が在家教団である意義

金剛禪の修行は、生きていく人間が拳禪一如の修行を通じて、心と体の両面を鍛え、まず自分自身が自分を信じ、頼りになる自分になることから始まる。その上で、他人と共に生きる意味を考え、お互いがお互いの事を思いやれる、少しでも世の中の役に立てる人間を一人でも多く増やし、現世に平和で豊かな世界を作る事が、金剛禪の目的である。

この金剛禪の修行の根底にある思想が、至尊の正しい教えⅡ原始仏教であり、他人との関わり合いの上で今の自分がいるという、縁起の法則を大切な教えの一つとして説いている。

縁起の法則とは、今いる自分は何かの働きによつてそこに存在する、ということである。すべての事柄が原因があつて結果につながる以上、自分自身もまた他人に何かしらの影響を与えて存在しているといつても過言ではな

い。

人の存在は他人との関わり合いを無くしては成立せず、食べ物を食べる、服を着る、こ
ういった当たり前のことであつてもすべて、
他人との関わり合いがあつてこと成立するの
である。

よつて、その他人といかに共存していくか
を目指す金剛禅においては、他人と家族との
関わり合いを捨てる出家信者というのはあり
えず、すべての拳士（門信徒）が在家信者で
ある。

第二章

在家信者の生活環境とは

すべての拳士（門信徒）が在家信者で構成
される金剛禅教団において、日常生活とは修
行そのものであり、生活環境そのものについ
て考えることは、金剛禅の修行のみならず、
金剛禅を布教していく上で非常に大切である。

まず、日常生活や生活環境とはどのような事をいうのであろうか？

日常生活とは、日々の生活の中で繰り返される出来事や習慣的動作のことである。日常生活を考える上で大切なことは、「日々繰り返される習慣的な事柄」ということである。金剛禅の修行は、「毎日が修行」というより、ある特定の時間・場所でのみ行われることなく、いかにして日常生活の中に取り入れて実践していくかが大切となる。

生活環境とは、このような日常生活が行われる場そのものである。生活環境の最小単位は、自分自身の個人的な居場所である。それは家庭内における自室であったり、学校や職場におけるデスクまわりである。そこから少し範囲を広げると、家になり、学校になり、職場となる。

生活環境が広がるにつれ、そこに関わる人の人数も増え、関係も複雑化していく。金剛禅の教えがいくら素晴らしきものであったと

しても、一つのパターンであらゆる生活環境において実践出来るものではなく、より大きな生活環境になるにつれ、一人ではなく複数
の協力者を得て、実践していく必要が出てくるのである。

金剛禅の布教の場である道院とは、家庭でもなく学校でもなく企業でもない。いいかえれば、道院はある種の「非日常的な生活空間」であり、日常生活の中のごく一部にしか過ぎない。この中での布教活動・実践でのみとどまるのであれば、それは金剛禅の修行を十分に行っているとは言えないのである。

第三章 道院長に求められる生活態度

道院長とは、金剛禅を実践し布教していく指導者のことである。前章で述べたように、道院は「金剛禅の布教の場」ではあるが、それは非日常の空間であり、「道院を運営する

指導者」としての道院長は、道院運営のみに
腐心するようでは、それは金剛禅布教者では
なく、「道場の運営者」でしかない。
よって、金剛禅布教者としての道院長の役
割は、「日常生活において、いかに金剛禅の
修行を行い、実践を通じて、一人でも多くの
門信徒を増やし、金剛禅の目的を達成するか
にある。」
道院長を取り巻く生活環境は、他の拳士（
門信徒）と同じく、自分の部屋から始まり、
家、学校や職場へと拡大する。
金剛禅布教者としての道院長が他の拳士（
門信徒）と大きく違う点をあげるとするなら
ば、修行と実践が自らのみならず、その他の
拳士（門信徒）の修行を助け、指導する立場
にあることである。よって、同じ生活環境を
考えたとしても、道院長はより一層の自律を
求められるし、より一層の人の協力が必要と
なる。
特に、家庭内における協力者の存在は重要

で、家族の理解のない環境での布教活動は、
将来的に様々な面での不調和が生じる結果と
なる。

たとえば、道院に行く事一つとってみても、
「何故行かなくてはいけぬのか？」「ただ
のお習いごとであつてはいけぬのか？」と
いう疑問が家族には必ず生じる。道院長とな
ると、土日関係なく行かなくてはいけぬこ
とも多く、家族に「いつも家にいない」と批
判されることになる。将来、「少林寺拳法

によつて家族関係が壊された」という事にも
なりかねない。

僧階読本には、金剛禅布教者に目指す適
切な生活態度の例として、「正業を持つこと、
礼拝施設を置くこと、書齋を持つこと」など、
非常に具体的な例があげられているが、本当
に必要なことは、こういった形上の設備や環
境を整える事ではなく、一にも二にも、家族
の理解を得られる生活態度である。

正業につかなければ家庭を守れないし、家

族の理解がなければ、礼拝施設を家に置くことなど不可能である。家族の理解を得るために金剛禅布教者がまずやらなくてはいけないことは、金剛禅の教えを理解して貰う事も重要だけれども、それ以上に、誠実に何をやっているのかを話すことである。

道院の中でなにをやっているのか、どんな問題があるのか、何が楽しいのか、どうしていきたいのか。そして、これらを話した上で、家族が何を言おうとしているのかを、批判せず聞くことである。おまえに何がわかる！、と言うのは言語道断である。

金剛禅布教者に求められる生活態度で最も重要な事は、家族の理解を得るために行う、傾聴と対話である。傾聴と対話の姿勢こそが、生活環境を広げたときにも役に立つ事柄である。

ろ。

■ 参考文献

・ 『運動論（実践論） 1 金剛禅布教者編』

金剛禅総本山少林寺